

# 沿岸イワシ類資源有効利用調査

(第2県土水産資源調査)

佐々木 正・村山達朗・沖野 晃

## 1. 研究目的

平成14～16年にかけて行った沿岸漁業実態調査の結果、本県沿岸漁業の複合経営を進めるためには、冬から春に操業可能な漁法の導入とイワシ類の資源動向の把握にあることが示唆された。そこで、イワシ類幼魚(以下「シラス」と称す)を対象とした知事許可漁業(すくい網漁業や船びき網漁業)がありながら、近年ほとんど操業実績のない石見海域において、シラスを対象とした漁業の再構築の可能性を探るため、シラスの分布実態調査と5トン程度の小型船1隻でも操業可能な船びき網漁法の開発を行う。

## 2. 研究方法

### (1) 操業実態調査および試験漁具の作製

イワシ類を対象とした船びき網の状況について、現在操業が行われている県東部の1艘曳きおよび県西部の2艘曳きを対象に聞き取り調査を実施した。このうち県東部の1艘曳きについては、漁具に小型水深計(STAR-ODDI社製)を取り付けて操業時の漁具の運用についての詳細な調査を実施した。

前述の調査結果を基に県東部の1艘曳きの漁具をモデルとして、試験操業用の漁具を作製した。

### (2) シラス分布調査

平成18年1月に高津川および江川河口周辺において、試験船「明風」により魚群探知機を用いてシラス魚群の分布調査を実施した。シラスと思われる魚群を確認した場所では、アイザックス・キッド中層トロールネットを用いてシラスの採集を試みた。

## 3. 研究結果

### (1) 操業実態調査

シラスを対象とした船びき網漁業は、県東部では美保湾を漁場に3統(2艘びき1統、1艘びき2統)が、県西部では高津川河口周辺を漁場に3統(全て2艘びき)が操業されている。操業時期は秋～冬季であり、漁場はいずれも河川水の影響のある海域の水深30m以浅の沿岸域に限定して形成されており、近年ではカタクチイワシを主体に比較的安定的な漁獲となっている。

聞き取り調査の結果から、新規に操業を開始する場合は、既存の漁場では漁場が限定されるため困難であり、他の河川の河口域等の新たな漁場の開発が必要であると考えられた。また、仮に新たな漁場においてシラス資源があり、安定的な漁獲が見込めたとしても、それを加工する加工業者の存在が不可欠であることから、漁協等と協力して調査研究をすすめる必要があると考えられた。

### (2) シラス分布調査

調査において漁獲対象となるシラスのまとまった魚群は確認できず、江川河口西側の水深15mのごく限られた海域でのみカタクチイワシのシラスが確認されたに留まった。この原因としては、当初の計画ではシラス漁の盛期である11～12月を調査時期としていたが、記録的な時化続きのために調査時期が大幅に遅れたことが影響した可能性があると考えられた。